

2020 年度友愛労働歴史館事業報告

友愛労働歴史館は年間を通し、Ⅰ展示会・講演会活動、Ⅱ資料の収集・管理作業、調査・研究活動、Ⅲ情報発信・PR活動、などの事業に取り組んでいる。2020年度(2020年4月1日～2021年3月31日)は以下の事業を行ったが、新型コロナウイルス対応のための休館、来館者の減少などに直面した。

Ⅰ展示会・講演会活動について

友愛労働歴史館は主な活動の一つとして展示会(常設展・企画展・特別展)活動と、これに連動した講演会・労働講座の開催を行っている。なお、当歴史館は2020年度、新型コロナウイルス対応のため2020年12月26日(土)から2021年2月7日(日)まで臨時休館を行った。これはホテル三田会館、一般財団法人日本労働会館の休館と連動したものである。

当歴史館の2020年4月～2020年12月の入館者数は176名。これに2021年1月～2月の入館者23名を加えると、2020年度の入館者は199名となる。新型コロナウイルスの影響で団体見学がほぼ無くなり、見学者は激減した。2012年8月1日の新装オープン以来の延べ入館者数は、10324名(2021.2.28現在)となった。

1. 展示会(常設展・企画展)活動

常設展「日本労働運動の100年余—友愛会・総同盟(戦前)を中心とする」は、2012年8月1日の新装オープン以来、原則同一テーマで開催し、随時、一部の展示をリニューアルして、今日に至っている。

企画展は年2～3回、時宜に合ったテーマで開催している。2020年1月に企画展「日本のメーデー100年」を、7月に企画展「総同盟・産別会議から新産別・総評へ」を、12月に公益財団法人富士社会教育センターの特別企画展「労働運動と教育運動」を、2021年3月に企画展「鬘(たてがみ)を持つ男・西尾末廣」を、それぞれ開催した。

また、福澤諭吉(1835.10.10～1901.2.3)の没後120年を記念し、研修室横通路を利用して特別企画展示「福澤諭吉とユニテリアン」(2021.2.1～3.31)を行った。

<友愛労働歴史館企画展>

①「日本のメーデー100年」展

と き：2020年1月6日(月)～同年6月30日(火)

ところ：友愛労働歴史館展示室

テーマ：企画展「日本のメーデー100年—自由と団結の旗のもと—」

内 容：第1部「メーデー前史 なぜMAY DAY？」

第2部「戦前のメーデー 非合法下で団結」

第3部「戦後のメーデー その変遷をたどる」

- ②「総同盟・産別会議から新産別・総評へ」展
と き：2020年7月6日（月）～同年12月8日（火）
ところ：友愛労働歴史館展示室
名 称：企画展「総同盟・産別会議から新産別・総評へ—1946～1950年の労働運動—」（2020.7.6～12.8）
内 容：第1部「戦後労働運動と総同盟・産別会議の結成」
第2部「産別会議民主化運動と総同盟の動き」
第3部「新産別・総評の結成と国際労働運動」
- ③「労働運動と教育運動」展（富士社会教育センター特別企画展）
と き：2020年12月14日（月）～2021年2月28日（日）
ところ：友愛労働歴史館・展示室
名 称：企画展「労働運動と教育運動」
内 容：第1部「前史・戦後労働者教育」
第2部「生涯学習社会での教育運動」
第3部「多様化する教育内容」
- ④「鬣（たてがみ）を持つ男・西尾末廣」展
と き：2021年3月8日（月）～同年7月5日（月）
ところ：友愛労働歴史館・展示室
名 称：企画展「鬣（たてがみ）を持つ男・西尾末廣—労働運動・政治運動に生きた生涯—」
内 容：第1部「風雪の人・西尾末廣」
第2部「百折不撓の人・西尾末廣」
第3部「鬣（たてがみ）を持つ男・西尾末廣」
- ⑤特別企画「福澤諭吉とユニテリアン教会」展
と き：2021年2月1日（月）～同年3月28日（月）
ところ：友愛労働歴史館・研修室横通路
名 称：特別企画「福澤諭吉とユニテリアン」
内 容：福澤諭吉の肖像画、レリーフ、額編「独立自尊」など。

2. 講演会活動

友愛労働歴史館は例年、企画展と連動させた講演会・労働講座を労使関係研究協会その他の団体と共催し、もしくは単独で開催している。しかし、2020年度は新型コロナウイルス対応のため講演会・労働講座は開催していない。

II 資料の収集・管理作業、調査・研究活動について

友愛労働歴史館は、年間を通して資料の収集を行っている。また、必要な調査・研究活動に取り組んでいる。

1. 資料の収集・管理

2020年6月、元民社党関係者2名より政治社会運動関連書籍やビデオテープの寄贈を受けた。また、2020年9月、元鉄労関係者から鉄労関連資料の寄贈を受けた。

2. 調査・研究活動

友愛労働歴史館は、常設委員会として「ユニテリアンと社会運動研究会」、「政治・社会運動史研究会」の2つの常設委員会を設置し、調査・研究活動を行ってきた。また、2018年に井堀繁雄研究会を設置。さらに2020年に友愛労働歴史館調査研究員制度を設けた。その活動、取り組みは以下の通り。

①ユニテリアンと社会運動研究会

ユニテリアン研究者で慶大名誉教授の土屋博政氏を中心とする研究会であるが、土屋教授の希望によりここ数年は開催していない。

②政治・社会運動史研究会は単独、もしくは労使関係研究協会との共催で随時開催してきたが、2020年度は新型コロナウイルス対応もあり開催しなかった。

③井堀繁雄研究会は梅澤昇平研究員を中心に井堀繁雄（労働運動家・協同組合運動家・政治家、日本労働会館理事長）の資料の収集、整理、デジタル化に努めており、2020年度は井堀繁雄研究書『人間・井堀繁雄』（仮題）の出版（2021年7月予定）をめざして随時、研究会を開催している。

④友愛労働歴史館調査研究員会議

友愛労働歴史館調査研究員制度を設け、調査研究員による第一回会合を2020年12月5日に予定した。しかし、新型コロナウイルス対応のため延期。調査研究員は「友愛労働歴史館の依頼に基づき情報・資料の調査・収集・発信、研究に取り組む」もので、現在委嘱している調査研究員は以下の通り。

石原康則（元三菱電機労組委員長）、梅澤昇平（尚美学園大学名誉教授）、高島礼一（著述業）、佐藤正行（社会運動家）、寺井融（アジア母子福祉協会監事）、村田明（中小企業労働福祉協会理事長）、柳澤信一郎（NPO法人事務局長）。

Ⅲ情報発信・PR活動について

友愛労働歴史館はインターネットを利用したメールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信、ホームページHPでの情報提供・PRなどを行っている。また、研究者・学生らへの相談対応、資料提供などに取り組んでいる。

1. メールレポート「友愛労働歴史館たより」の発信

メールレポート「友愛労働歴史館たより」第154号を2020年3月30日に発信した後、6月2日に第155号、6月30日に第156号、7月27日に第157号、8月19日に第158号、9月23日に第159号、10月21日に第160号、11月25日に第161号、12月24日に第162号、2021年2月15日に第163号、そして3月18日に第164号をそれぞれ発信した

また、当館は E メールを活用し、必要な情報をメールアドレス登録者に随時、発信している。2021 年 2 月末現在のメールアドレス登録者は約 1320 名である。友愛労働歴史館 E メールアドレス yuairodorekishikan@rodokaikan.org

2. 友愛労働歴史館ホームページの運営

友愛労働歴史館は情報提供用にホームページ HP を開設しており、随時更新している。友愛労働歴史館 HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

3. その他

- ①友愛労働歴史館の公式ツイッター（@yuaireshi1912）を開設、随時更新し、情報を発信している。
- ②当歴史館の常設展チラシ、企画展チラシ、その他を活用し、紙媒体での PR 活動を行っている。
- ③当館のメールアドレス登録者を対象に、紹介用スライド「ようこそ友愛労働歴史館へ」などのデジタルデータを E メール送信し、紹介活動・PR 活動を行っている。

IV その他

- ①社会・労働運動関係資料の保存・活用のため全国の資料館・図書館などが加盟している社会・労働関係資料センター連絡協議会（労働資料協）の 2020 年定期総会が 2020 年 11 月 10 日に開催された。今年の総会は新型コロナウイルス対応のため ZOOM を利用し WEB 上で開かれた。
- ②2020 年 6 月、ユニテリアン教会・惟一館（現友愛会館）の設計者、ジョサイア・コンドル没後 100 年を記念し、コンドルゆかりの建物などを紹介した「コンドルマップ」を作成して希望者に配布した。

以上